

太陽光建設現場 新たな土壌浸食

霧島

霧島市霧島永水にある大規模太陽光発電所（メガソーラー）の建設現場の土砂流出を巡り、周辺の農家や市の担当者ら約15人が30日、現地を視察した。

県の雨量計によると、同市霧島田口で27日朝の降り始めからの降水量が600ミリを超えた。規模の大きな土

壌浸食が至る所で確認され、土砂流出防止の恒久対策として芝を張った場所でも浸食が見つかった。

視察した農家は「梅雨明け後は田んぼに引く水が大切になる」とし、施工業者などに対し、近くを流れる川の流木や泥の早期除去などを求めた。

現場では5月、雨による大規模な土壌浸食と大量の土砂流出が確認された。県は「施工中



芝を張った場所でも浸食が見つかった大規模太陽光発電所の建設現場
＝30日、霧島市霧島永水（住民提供）

の雨水対策が不十分」との見解を示し、施工業者は建設工事を中断、防災調整池に流入した土砂の撤去などを続けている。